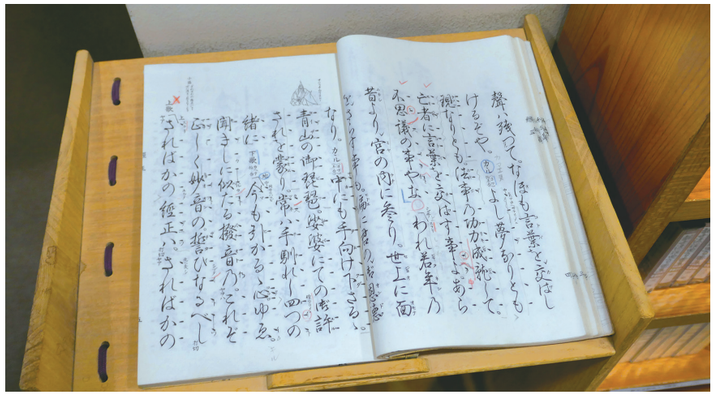
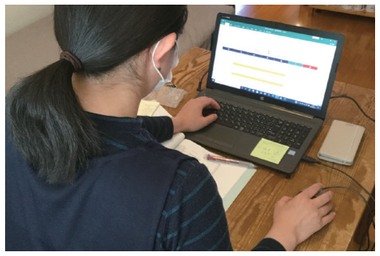
株式会社檜書店



在宅勤務　BCP対策　時間の有効活用　人材確保

会社概要

- 本社所在地：東京都千代田区神田小川町2-1
- 代表取締役：檜 常正
- 従業員数：8名（2021年1月現在）
- 事業内容：能楽関係書籍の出版・販売、謡仕舞の稽古用品の販売
- URL：https://www.hinoki-shoten.co.jp/



業務を棚卸しし、営業社員にも在宅勤務を導入 残業や移動時間を削減し、多様な効果を実感

自力での導入は困難と敬遠するも 東京2020大会を契機に導入を検討

当社は、江戸時代から360年続く能専門の出版社で、能の稽古に使用する謡本（教本）を出版しており、漫画の入門書やDVD、グッズ販売も行っています。最近では能楽公演における字幕・解説の業務も受託しています。

物販の在庫管理や商品納入といった現場仕事が多く、テレワークに向かないと考えていました。また、ITに関する知識がないため、自力での導入は難しいという思いもありました。ただ、遠距離通勤をする社員の負担軽減や雇用継続の解決策の一つとして導入を考えるようになり、東京2020大会による通勤困難への対応を契機に、本格的に検討を始めました。その折、一般社団法人日本書籍出版協会から「はじめてテレワーク（テレワーク導入促進整備補助金）」を紹介され、コンサルタントの助言を受けたいと考えました。

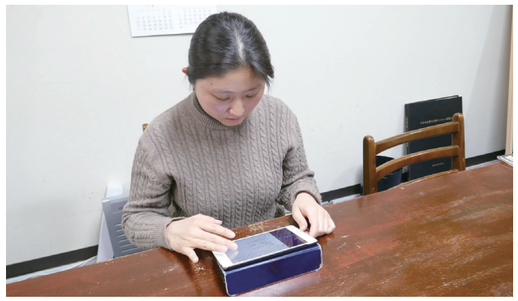
会社と同じ作業環境を自宅に構築したい 導入準備の中で方向性が具体化

2019年12月から東京都の業界団体連携によるテレワーク導入促進事業を活用し、コンサルティングが始まりました。テレワークに必要な機器の選定では、社内で行っている作業と同じ環境を自宅に構築できることを目的にして検討を進めました。その中で、リモートデスクトップによる遠隔操作という方法を知り、操作性だけではなく、セキュリティも担保されるとアドバイスを受け導入を決めました。自社で利用していたシステムやICTツールの課題を洗い出し、不足機能を明確にすることで導入ツールを選定できました。

次に業務の棚卸しを行い、在庫管理や伝票入力、入金確認、ネットショップの運営、SNS・メールマガジンの配信等、多岐にわたる業務がテレワークが実施可能なことが分かりました。

テレワーク勤務規程は、ひな形をもとに勤務時間の設定や労務管理の方法等を中心に調整していきました。労務管理は、リモートデスクトップを使うことで、テレワーク実施者のパソコンを見れば作業しているか確認できるため、管理ツールの導入は見送りました。

コンサルタントが、当社の考えや予算等の条件を踏まえてアドバイスくださったことで、スムーズに準備が整いました。



在宅勤務で集中でき効率アップ 学会業務もWeb会議活用で時間を有効活用

2020年2月に「はじめてテレワーク」を活用し、ノートパソコン2台とリモートデスクトップを導入しました。トライアル対象者は営業、編集の2部門から各1名を選定しました。勤務時間は、出社時と同じ9時30分から17時30分とし、前日に作業予定を共有し、ノートパソコンと業務資料を持ち帰り、始業・終業をチャットで報告することにしました。チャットは、社員同士のコミュニケーション用と、業務データのアップロード用の2種を使い分けました。

営業の社員は、商品出荷のない木曜日を在宅勤務とし、業務の棚卸しでテレワーク可能と分かったパソコンでの業務を自宅で行いました。それまでは毎週土曜日に配信するメールマガジンの原稿を金曜日に残業して作成していましたが、在宅勤務で集中して作成できたため、残業がなくなりました。

また、FAXで届く注文書を基幹システムに入力する業務では、控えを持ち帰り自宅からリモートデスクトップを活用して行いました。また請求等の発行・発送は、請求書を作成した後、そのまま自宅から出力し、翌日社内に出力されている請求書を封入・郵送するという運用方法に変え、自宅でできることと会社で行うことを切り分け、効率的に業務を行うようにしました。

代表と編集の社員は、学会への参加にWeb会議を活用しています。また、動画配信サービスを海外へオンラインで配信するための解説文、口語訳、英訳の業務やその打合せも海外の翻訳者とWeb会議を行うことで、時間の有効活用ができました。

テレワークの体制を整えていたことで、編集の社員の家族が発熱した際、急きょ在宅勤務に切り替え、業務を止めずに対応できたことも成果です。さらに、通勤時間の削減で、能の学習に当てられたという社員もおり、導入の効果を実感しています。

不具合を改善しながら制度を構築 営業効果も見据えて新たな取組へ拡大

新型コロナウイルス感染症への対応で対象者に経理も加えました。さらに、リモートデスクトップはアクセスが集中すると動作が遅くなるということが分かり、現在はVPN接続でサーバーにアクセスする方法に変えました。また、VPN接続では編集用ソフトがうまく作動しないということも判明し、クラウド型の編集用ソフトに切り替えました。クラウドサービスを利用したことで、外部カメラマンの撮影データをクラウドに直接アップロードしてもらうことで受け取れるようになり、効率化が図られました。

今後は、モバイル勤務の導入も検討し、営業が外回り中に在庫確認を行い、即時性の高い商談ができるようにしたいと考えています。

テレワーク導入の流れと成果

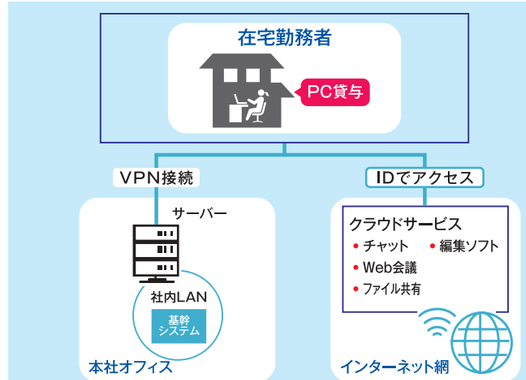
きっかけ
- ☑ 遠距離通勤者の負担軽減や雇用継続の強化
- ☑ 東京2020大会による通勤困難への対応

コンサル
- ☑ 予算や条件を踏まえたテレワーク機器・ツールの選定
- ☑ 規程整備に向けた勤務時間や労務管理等の検討
- ☑ 伝票入力等のテレワーク可能な業務を棚卸し

取組
- ☑ ノートパソコン2台とリモートデスクトップを導入
- ☑ 営業、編集部門から各1名がトライアルに参加
- ☑ 在宅勤務にてシステムへのデータ入力等を実施
- ☑ Web会議を活用し、学会に参加し、翻訳の打合せを実施

成果
- ☑ 移動時間の削減で時間の有効活用
- ☑ 社員の家族の傷病時に在宅勤務を活用

現在の運用方法



※現在はリモートデスクトップを廃止

PROJECT leader

代表取締役
檜 常正 様

テレワークに関するサービスは日進月歩進化しています。当社は知識がない中で始めていき、自社に合ったツールに変えながら、制度を導入していきました。まずは一歩を踏み出して、チャレンジしていくことが大事になります。

TELEWORK 実施者の声

営業部
角田 みずき 様

在宅勤務は、電話対応で作業が中断しないため集中できました。この業界は歴史がある分、知識の高いお客様もいらっしゃいますので、通勤時間の削減で好きな能の勉強の時間が作れ、ニーズに応えられるようになりました。家族と食事をする時間等が増えたこともメリットだと感じました。